P RI No. 982

渡辺 ゲ

観永さんのゲスト

ス

します。

新しい年

元米山奨学生

受入青少年交換学生

タ ア

んと、

家内のマリ子が世話になり

(アックスさん) ブスカタさん 元受入青少年交換学生

ジャムヤン カイチョウさん

ワンリー ンガンブンシンさん

例 会 日/木曜日12:30~



2007-2008 RI Presidents Wilfrid J. Wilkinson

<本年度クラブ会長方針>

Y ROTARY ふたたび

ロータリーソング 一君が代」

われらひまわり」

指

揮

観永

ピアノ伴奏



第 1147 例 会

ータリー 理解推進月間

平成20年1月10日(木) 出席計算数 名古屋東急ホテル 69名中48名出席 会員 69 名

前々回出席率95・3

ニコボックス

4569 % %

本年も宜しくお願いします。 明けましておめでとうございます

太田 大原 敏正·酒井 英弥・前田 洋・杉浦 裕・近藤宏一郎 令淑 隆久

日比野芳丈・髙木 今年も宜しくお願い致 隆彦・木村 政義 光徳 **व**ू

明けましておめでとうございます 本日は、元交換学生のワンリーさ 草野 明夫・山田 淳三・横内 勝彦・小笠原和俊 晶邦・川畑 柴岡 邦彦 博敬 正将 住田 受入青少年交換学牛 マイケル

正夫さんの奥様 ユール君

住田 マリ子さん

結婚記念日1月4日です。 ざいました。 照井さん、中根さんありがとうご

銀杏お布施

挨 拶

会

長

あけましておめでとうございま 堀江 英弥

あります。 なぜ子が十二支の最初なのでしょ うか。猫はなぜはいらないのでし ょうか。その答えは民話に答えが で最初の干支にあたります。では りました。何か新しい良い年にな ってくれる期待を持ちたいと願っ ています。 平成20年、平成も成人の歳にな さて、ことしは子の年、十二支

委員会1月30日宜しくお願いし 今年もいい年にします。 おめでとうございます。社会奉仕 岩崎 征 がお触れを出しました。「元日の朝 昔々の大昔ある年の暮れに、 新年の朝に一番早く来た者から十

賀状有り難う御座いました。 年男です。 は失礼をしました。 65 才になります。 あけましておめでとうございます 小野 横井 Ш 正孝 定男 本年

留学生OB新年会、 りがとうございました。 妻の誕生月です。 多数ご参加あ 小 野 剛男 隆德 定男

をして、暗いうちに出発しました。 でした。われこそ一番と喜んで待 乗りました。そんなこととは知ら 牛小屋の天井でこれを見ていたね のところにいつ行くかを忘れてし 物の大将にしてやろう」と言いま んねずみが牛の背中から飛び降り いてみますと、まだ誰もいません ずみは、牛の背中にぴょんと飛び 先に出かけようと夜のうちに支度 は自分は歩くのが遅いから、一 日を教えました。元旦になると牛 は意地悪をしてわざと一日遅れた まい、ねずみに尋ねると、ねずみ っていました。ところが猫は神様 と銘々気張って元旦が来るのを待 つうち門が開きました。そのとた した。動物たちは、一番に成ろう 一番の者までは、順に一年間、 牛が神様の御殿に着き、近づ





年

男



岡村 隆徳

さいます。 皆様明けましておめでとうご

で今年48歳の年男です。当クラブ私は昭和35年の1月の生まれ

たように思います。と呼ばれ、お荷物扱いにされていば私が社会に出たときには新人類と一周となりました。思い起こせと一周となりました。思い起こせではまだ若輩者ですが還暦まであ

気がついてみれば団塊の世代と団塊ジュニア世代に挟まれ飛ばと団塊ジュニア世代に挟まれ飛ばと団塊ジュニア世代に挟まれ飛ばと団塊ジュニア世代に挟まれ飛ばと団塊ジュニア世代に挟まれ飛ばと団塊ジュニア世代に対して中心世代ではありませんが

高度成長期の末期に社会に入ら信じています。

ます。
ます。
ます。
せ事上では私の業界である製造
ます。
は事上では私の業界は世界的に再
が著しく日本のメーカーはほと
んど衰退してしまいました。しかし最
移行してしまいました。しかし最
の一国や韓国、インド、ロシア製の
中国や韓国、インド、ロシア製の
市国や韓国、インド、ロシア製の
の一国や韓国、インド、ロシア製の
を記が積極的に市場投入されてい
はいまである製造
は事上では私の業界である製造
ます。

今年は日本の得意分野のすり 今年は日本の得意分野のすり 今年は日本の得意分野のすり 今年は日本の得意分野のすり 今年は日本の得意分野のすり

まいこ。 本年もよろしくご指導のほど

石黒 正城

新年あけましておめでとうご がます。本年もよろしくお願い

い、経済は二極化が一層すすみ、し、経済は二極化が一層すすみ、し、経済は二極化が一層すすみ、食品偽装の連続、家族間殺人等々、食品偽装の連続、家族間殺人等々、食品のです。

私は、今年年男の48歳になります。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。学校を卒業後、会社勤めを経す。

ます。

今般、大須ロータリークラブに今般、大須ロータリークラブ入会以の方々と積極的に交流し、またの方々と積極的に交流し、またの方々と積極的に交流し、またからであります。クラブ入会以序たる壮年を迎えたいという気持厚たる壮年を迎えたいという気持厚たる壮年を迎えたいという気持高義に過ごせる気がしてなりません。



今年は、クラブへの積極参加を今年は、クラブへの積極参加を、赤分対応できるようなまた、仕事、クラブ参加も、ま重な教訓としたいと思います。重な教訓としたいと思います。重な教訓としたいと思います。

様のご健勝を心からお祈りいたし最後になりますが、クラブの皆どよろしくお願いいたします。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほ

503) W

浅野 彰

◇敦 盛 成子年頭にあたり思うこと

る月より猶あやし 思えばこの世は 常の住処に

有為の雲に隠れり というで 無常の風にさそはるる 南って 無常の風にさそはるる 南金谷に花を詠じ 栄華は先立

人間五十年 下天の中をくら

☆ 丈 生を受け 夢幻のごとくなり 一度 滅せぬ者の有るべきか

りたる例なし 消え かつ結びて よどみに浮かぶうたかたは しかも もとの水にあらず 行く河の流れは絶えずして 久しくとどま かつ

かくの如し 世の中にある人と栖と また

ひは ば一昔ありし家は稀なり なれどこれをまことかと尋ぬれ 去年焼けて 今年造れり 甍を争える 高き・卑しき人の住 大家滅びて 玉敷の都のうちに 世々を経て尽きせぬもの 小家となる 棟を並べ 或いは 或は

らず にぞ似たりける 夕に生るる習ひ かに一人・二人なり(朝に死に 0人は 二 三十人が中に わず 住む人もこれに同じ 人も多かれど いにしえ見 (ただ) 水の泡 所も変

えず 消えずといへども 夕を待 悦ばしむる その主と栖と無常を 心を悩まし つことなし り 残るといへども 朝日に枯れ ならず 或は 露落ちて 花残れ 争ふさま 言はば 朝顔の露に異 た知らず より来たりて 何方へか去る ま 知らず 生まれ・死ぬ人 何方 或は 花しぼみて 露なほ消 仮の宿り誰が為にか 何によりてか目を

> ♦徒 つれづれなるままに 日くらし きこそ いみじけれ るほしけれ つる習ひならば いかに ものの きつくれば 硯にむかひて あはれもなからん
> 世はさだめな 鳥部山の烟たち去らでのみ住み果 しなしごとを そこはかとなく書 あだし野の露消ゆる時なく あやしうこそものぐ 心にうつりゆくよ (序段)

> > る

らぬほどにて ければ唇多し き姿を待ちえて何かはせん そせめ 住み果てぬ世に みにく を過すとも すほどだにも こよなうのどけし るぞかし
つくづくと
一年を暮ら ち 夏の蝉の春秋を しらぬもあ 久しきはなし 命あるものを見るに人ばかり 飽かず 惜しと思はば 千年 一夜の夢のここちこ 死なんこそ 長くとも四十にた かげろふの夕を待 命長 めや

> をあらましひたすら世をむさぼ してさかゆく末を見んまでの命 も知らずなりゆくなん あさまし はん事を思ひ
> 夕の陽に子孫を愛 を恥づる心もなく 人に出まじら すかるべけれ 四十にも余りぬる人の そのほど過ぎぬれば 心のみふかく もののあはれ (第七段) かたち 色め

きらめきたる ぬ身にて 世の覚えある人を 隔 興あらんと物言ひゐたる 数なら き事 老人の若き人に交はりて てなきさまに言ひたる 貧しき所 苦しけれ ひたはぶるるこそ にげなく 見 でて 男・女の事 んは きたる方
おのずから忍びてあら に酒宴好み おほかた 聞きにくく見苦し いかがはせん言に打ち出 客人に饗応せんと 人の上をも言 (第百十三段)

> るまで上手に至らざらん芸をば捨 なく 見ぐるし 笑はず 衆に交はりたるも 末もなし つべきなり ある人の言はく 年五十にな 老人の事をば 習心べき行く 人もえ あい

りて生涯を暮らすは
下愚の人な りゆかしく覚えん事は あらまほしけれ 世俗の事に携は ◇平家物語 つかなからずして止むべし 止めて 暇あるこそ めやすく 第一のことなり(第百五十一段) くともその趣を知りなば より望むことなくして止まんは おほかた よろづのしわざは 学び聞 もと おぼ

ひには滅びぬ の夜の夢のごとし
たけき者もつ おごれる人も久しからずにだ春 塵に同じ 盛者必衰の理をあらはす の響きあり 沙羅双樹の花の色 祇園精舎の鐘の声 ひとへに風の前の 諸行無常

◇養 生

少なく 五十以下 短命なる人多 世上の人を見るに下寿をたもつ人 如くみじかきや 六十なり 六十以上は長生なり は虚語にあらず長命なる人少な 上寿は百歳 人の身は百年を以て期とす 人生七十古来稀なりといへる 五十なれば不天と云いて 中寿は八十 下寿は 人の命なんぞこの これ皆養生の術

ばあるべからず きて短きにはあらず十人に九人 なければなり 短命なるは生れ付 ここを以て 人皆養生の術なくん 皆みずからそこなえるなり



◇論 語

踰知。 ◇礼 而立。四十而不惑。五十而知天命**。** 八十而耳順。 子曰「吾十有五而志于学。三十 記 七十而従心所欲、不 (為政第二)

得人不煖矣。 非帛不煖。八十非人不煖。九十雖 ◇素 女 五十始衰。六十非肉不飽。七十 経 (内則第十二)

多御少女而莫数潟精。使人身軽。 百病消除也。 宣知交接之法。法之要者。在於

◇眠れる美女

って、あごの下までのびていた。 おっていた。長い中指は少しあま 手の甲と言っても、楽に指を伸ば れているのは目の下のあたり、そ こでまげた指が鼻の横から肩をお しているので、甲のはしの軽くふ あどけない少女が眠っていた。



ていない。寝る前に化粧を落とし とんの襟にのせて、 たらしくもない。 く握っていた。なにも寝化粧はし 指はやわらか

それは左手だった。

右手はかけぶ

った。しかし娘の温かさは、電気 をつけた。娘は身じろぎもしなか 毛布の温かさとは別に、老人をつ た。娘のどこにもふれぬように気 江口老人はそっと横にはいっ

そうばかりではない。 そう感じるのかもしれなかったが、 のようだった。髪や肌の匂いで、 つんで来た。未熟の野生の温かさ

白羽根町

タジオあい

オオスシンガーズ発表会 **〜イ・カンタンティ〜**

瑞穂通

マクドナルド



ROTARY CLA

元受入青少年交換学生(2000~2001) ワンリー ンガンブンシンさん

東海交通遺児を励ます会より 謝 状 披 露

NAGO



元米山奨学生(1995~1997) カイチョウさん ジャムヤン





タニア ブスカタさん



受入青少年交換学生 マイケル ユール君

場所

ノスタジオあい

⑤番出口すぐ 地下鉄「瑞穂運動場」 日時/1月7日(日)

15 時

チベット語で「最高の幸せ」と書かれており、チベット やモンゴルでは、これをお正月に飾るそうです。

奉

事

ジャムヤンさんよりお土産の「タンカ」を頂きました。

第 社 時 会 場 所 仕 1

部 部 午前11時45分~ 分かちあいの心と勇気」 午前9時~ 名古屋市立 大須商店街 月 30 日 (水) 大須小学校

卓

話

~ロータリーミニ知識~ 「ロータリー理解推進月間

Rotary Awareness Month

活動を通じて、対内的にはローいる。これは対外的には広報リー理解推進月間に指定して タリー Rでは毎年1月をロータ ・理解推進月間に指定して 情報集会、

> 進するものである。 ナーを通じてロー 夕 IJ ١

> > を

1 月 24 **金** 例会のご案内

濃尾平野、 栄大野ビルオーナー 過去・現在・未来」 大野 寛次さん

第

一分かちあいの心と、

安心、安全な町づくり」

紹介者

加藤

正樹さん



広報委員会 内藤

雅尚 明 杉浦 近藤宏 令公 淑郎